

令和4年度（2022年度）島根県立大学  
国際関係学部 国際関係学科  
国際関係コース

一般選抜（前期日程）

小論文

【試験時間 90分】

以下の注意事項をよく読んで指示に従うようにしてください。  
指示に従わない場合は、不正行為と見なしますので、注意してください。

1. 解答開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。許可なくこの問題冊子を開いた場合は、不正行為と見なします。
2. 解答時間は90分です。
3. 試験問題は、1ページから5ページです。解答開始の合図があった後、問題冊子を確認し、印刷不鮮明な箇所等があった場合は、直ちに申し出てください。
4. 解答用紙は2枚あり、問題冊子とは別になっています。解答は指定された解答用紙の解答欄に横書きで記入してください。
5. 受験番号、氏名は2枚の解答用紙の所定欄すべてに記入してください。
6. 解答に西暦などの数字を記入する際は1マスに2桁記入すること。  
例：

20	22	年
----	----	---

 ※3桁の場合は2マスで記入すること。
7. 問題冊子の余白を下書きに利用しても構いません。
8. 試験時間中の退出はできません。
9. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

**問題** 次の文章は、2016年5月27日にアメリカのバラク・オバマ大統領（当時）が広島を訪問し、そこで行った演説の全文である。この文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

71年前、雲ひとつない晴れた朝、死が空から降り、世界が変わりました。閃光と炎の壁が街を破壊し、人類が自らを滅ぼす手段を手にしたことを証明したのです。

[A] なぜ私たちはここ、広島を訪れるのでしょうか。私たちは、それほど遠くない過去に解き放たれた恐ろしい力に思いをはせるために訪れるのです。10万人を超す日本の男性、女性、そして子どもたち、何千人もの朝鮮半島出身者、十数人の米国人捕虜を含む死者を追悼するために訪れるのです。彼らの魂が私たちに語りかけます。心の中に目を向け、私たちが何者なのか、これからどのような存在になり得るのかをよく考えるように求めているのです。

広島を際立たせるのは戦争という事実ではありません。古代の遺物を見れば、暴力的な紛争は人類の歴史が始まった頃からあったことがわかります。火打ち石から刃を、木からやりを作ることを学んだ私たちの初期の祖先は、これらの道具を狩猟だけでなく、同じ人類に対しても使ったのです。どの大陸においても、文明の歴史は戦争であふれています。穀物の不足や富への渴望から行われた戦争もあれば、国家主義の熱狂や宗教的な情熱からやむなく起きた戦争もありました。帝国が台頭しては、衰退していきました。民族が服従を強いられたり、解放されたりしました。そして、それぞれの節目で、罪なき人々が苦しみました。犠牲者の数は数えられないほど多く、その名は時が経つにつれ忘れられていきました。

広島と長崎において残酷な結末を迎えた先の世界大戦は、最も豊かで、最も力のある国々の間で戦われました。そうした国々の文明は、世界に偉大な都市や優れた芸術をもたらしていました。そうした国々の思想家らは、正義や調和、真実に関する考えを唱えていました。それにもかかわらず、その大戦は、最も単純な部族間の紛争の原因でもあった、支配したい、征服したいという衝動と同じ卑しい衝動から生じたのです。（その大戦は）そういったいつものパターンで繰り広げられたわけですが、そのパターンは新たな制約のないままに、新たな能力によって増幅されたのです。数年の間に、およそ6000万人の人たちが亡くなりました。男性、女性、子ども、私たちと何ら変わらない人たちが、撃たれ、殴られ、行進させられ、爆撃され、投獄され、飢えさせられ、ガス室に入れられ、死んでいったのです。

この大戦を歴史にとどめる場所は世界に数多くあります——勇敢さや英雄的行為の物語をつづった記念碑、筆舌に尽くしがたい卑劣な行為を思い起こさせる墓地や廃墟となった収容所です。しかし、この空に立ち上ったキノコ雲の映像を見ると、私たちは人間の中にある根本的な矛盾を最もはっきりと突きつけられます。その矛盾とは私たちを人類たらしめている知性——つまり、私たちの思考や想像力、言語、道具をつくる能力、

そして私たち人間を自然とは区別し、思いのままに自然を変える力——まさにこうしたものが、同時に、比類なき破壊能力を私たちにもたらしもするのです。

物質的な進歩や社会的革新によって、私たちはいくたびこの事実を見失うのでしょうか。より高邁<sup>こうまい</sup>な大義の名の下に、なんと簡単に暴力を正当化してしまうようになるのでしょうか。偉大な宗教はすべて、愛、平和、正義への道を約束しています。しかし、いかなる宗教も、自身の信仰を殺人の許可証だと主張する信者たちから免れてはいません。国家が成立するとき、犠牲と協力の下に人民を結束させる物語が語られ、偉大な行為が可能になります。しかし、まさにその同じ物語が、自分たちとは異なる者たちを抑圧し、その人間性を奪うのに利用されることも、あまりにも多かったです。科学によって私たちは、海を越えて通信を行い、雲の上を飛行し、病を治し、宇宙を理解することができるようになりました。しかし、まさにその同じ発見が、さらに効果的な殺戮<sup>きつりく</sup>マシンに変身させられることもあり得るのです。

現代の戦争は、私たちにこの真実を教えています。広島は、この真実を教えています。科学技術の進歩は、人間社会の制度においても同じだけの進歩がなければ、人類を破滅に導きかねません。原子を分裂させるに至った科学革命は、同時に倫理的な革命も必要とするのです。

だから私たちはこの場所に来るのです。ここに、この街の中心に立ち、あの爆弾が落ちた瞬間を想像することを自らに強いるのです。目にした光景に混乱した子どもたちの恐怖を、自ら進んで感じようとするのです。声なき叫びに耳を傾けるのです。私たちは、あの一連の凄惨<sup>せいさん</sup>な戦争と、そしてそれに先立つ戦争と後に続いた戦争によって亡くなった、すべての罪なき人々を思い起こすのです。ただの言葉では、そうした苦しみを言い表すことはできませんが、私たちに歴史を直視し、あのような苦しみの再発を防ぐために、どうやり方を変えなければならないかを問う、共同責任があります。

いつか、証言をする被爆者の声をもはや直接聞くことができなくなる日がきます。しかし、1945年8月6日の朝の記憶を決して風化させてはなりません。その記憶があれば、私たちは、現状に甘んじようとする心と戦えるのです。私たちの道義的な想像力がかき立てられ、私たちは変わることができるのです。

そして、あの運命の日以来、私たちは、希望をもたらす選択を行ってきました。アメリカと日本は、同盟関係のみならず友好関係も築きました。その友好関係は、戦争を通じて獲得できるよりもはるかに多くのものを両国民にもたらしてきました。ヨーロッパの国々は連合を結成しました。それにより戦場は、交易および民主主義で結びつく場となりました。抑圧された民族や国々は解放を勝ち取りました。国際社会は機構や条約を成立させました。それらは戦争を回避する機能を持ち、そして **[B]** 存在する核兵器を制限し、徐々に縮小し、最終的には廃絶することを目指すのです。

それでもなお、国家間の武力侵攻が、そしてテロ攻撃や腐敗行為、残虐行為や抑圧行為が世界各地で起きているのを目にしますが、それらはことごとく、私たちの取り組み

がいまだ終わっていないことを物語っています。私たちは、人類が持つ、悪をなし得る資質を根絶することはできないかもしれません。ですから、国家や私たちが結成した同盟は、自らを守る手段を持たなければならないのです。

とはいえ、わが国のように備蓄核兵器を保有する国々は、「恐怖の論理」から自由になり、「核なき世界」を追求する勇気を持たなくてはなりません。私の生きているうちに、私たちはこの目標を実現できないかもしれません。ですが、たゆまぬ努力によって、破滅的状況が起きる可能性を減らしていくことができます。私たちは、これら備蓄兵器の廃絶への道筋を示すことができます。ほかの国への拡散を阻止し、死をもたらす原料物質が狂信者たちの手に渡らないようにすることができます。

しかし、それではまだ十分ではありません。なぜなら、私たちはこんにち、最も粗悪なライフルやたる爆弾[\*]でさえ恐ろしい規模の暴力をもたらすことができるのを、世界中で目の当たりにしているからです。私たちは、[C] 戦争そのものに対する考え方を変えなければいけません。外交を通じて紛争を防ぎ、すでに起きてしまった紛争を終わらせる努力をするために。相互依存の高まりが暴力的な競争の動機になるのではなく、平和的な協力を生むものだと考えるために。そして、私たちの国々を、破壊する能力によってではなく、何を築き上げるかによって定義づけるために、そうしなければなりません。

そして、おそらく何にもまして、私たちは同じ人類の一員として、互いの関係を考え直さなくてはなりません。なぜなら、そのことも人類を類のない存在にしているからです。私たちは遺伝情報によって、過去の間違いを繰り返すように定められているわけではありません。私たちは学ぶことができます。選ぶことができます。私たちは子どもたちに（今までと）別の物語を伝えることができます。人類に共通する人間性を描く物語を、戦争の可能性を減らし、残虐な行為をより受け入れにくくするような物語を伝えることができるのです。

私たちはこうした物語を、被爆者の中に見ることができます——原爆を投下した爆撃機のパイロットを許した女性がいます。それは、本当に憎いのは戦争そのものだと彼女にはわかっていたからです。また、ここで亡くなった米国人たちの家族を捜し出した男性がいます。それは、彼らの喪失感は自らの喪失感と変わらないと、彼には思えたからです。

わが国の物語は平易な言葉から始まりました。「すべての人間は生まれながらに平等であり、生命、自由、幸福の追求など、不可侵の権利を創造主により授けられた」。そうした理想の実現が容易だったことはありません。わが国内においてさえも、わが国の国民同士であってもです。

しかし、その物語に忠実であり続けることは努力に値します。それは努力して求めるべき理想であり、大陸を越え、海を越えて広がる理想なのです。すべての人の減ずることのできない価値。すべての命はかけがえのないものだという強い主張。私たちは人類

という一家族の一員なのだという根本的で、なくてはならない考え——これらは、私たち全員が語るべき物語なのです。

だからこそ、私たちは広島を訪れるのです。愛する人たちに思いをはせ、朝起きて最初に見る子どもたちの笑顔や、食卓越しに伴侶から優しく触れられることや、親からの心安らく抱擁のことを考えるためです。私たちはそうしたことを思い浮かべ、71年前、同じような大切な瞬間がここにもあったことを知ることができます。亡くなった人たちは、私たちと変わりません。普通の人たちはこのことをわかっていると、私は思います。彼らはこれ以上、戦争が起きないことを望んでいます。彼らは科学の驚異を、人々の生活を奪うためではなく、むしろ向上させるためだけに使ってほしいと思っています。国家による選択——指導者による選択——が、このシンプルな英知を反映するようになれば、広島教訓は生かされたと言えるのです。

世界はここ広島で永遠に変わってしまいました。しかし今日、この街の子どもたちは平和な一日を過ごせるでしょう。なんと尊いことでしょうか。平和な毎日を守る価値のあるもの、そしてさらに、すべての子どもたちに広げていく価値のあるものです。それは、私たちが選び取ることでできる未来です。広島と長崎が核戦争の幕開けとしてではなく、私たち自身の道義的な目覚めの始まりの地として知られる未来なのです。

\*たる爆弾：円筒形の容器に火薬や石油類を詰めた爆弾。

出所：『CNN English Express』編集部『[対訳] オバマ広島演説』朝日出版社、2016年、10-33頁。

(引用文中のルビ、丸カッコ、二重ダッシュは原文のまま。角カッコは出題に際して施したものである。また、引用に際して、語句を改めている箇所がある)

問いは次のページにあります。

**問1** 下線部 [A] について、私たちが広島を訪れる理由は何であると演説者は語っているのでしょうか。文章中の内容や語句を用いて、200 字以内で述べなさい。その際、「それほど遠くない過去に解き放たれた恐ろしい力に思いをはせる」ことの具体的な内容を含めること。

**問2** 下線部 [B] について、これまで国際社会や備蓄核兵器を保有する国々の間で成立した、「核兵器を制限し、徐々に縮小し、最終的には廃絶する」のを目指すことに関わる機構や条約のうち、任意にひとつの具体的な機構や条約を取りあげて、その内容を200 字以内で略述しなさい。

**問3** 下線部 [C] で述べているように、私たちは「戦争そのものに対する考え方」を変えなければならないのでしょうか。また、「戦争そのものに対する考え方」を変えるとすれば、従来のどのような考え方からどのように変えなければならないのでしょうか。これらのことについて、文章中の内容やあなたのこれまでの経験、学習内容を踏まえて、600 字以内で述べなさい。